

なし管理情報 No.8

令和5年10月6日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 生育概況

(1) 中生品種の収穫時期

- 「豊水」は、9月3日頃から収穫を始めた園地が多く、盛期は9月11日頃で平年並みだった。
- 「あきづき」は、9月11日頃から収穫を始めた園地が多く、盛期は9月20日頃。

(2) 中生品種の果実品質等

- 日焼け果が平年に比べ多かった。
- 「あきづき」で果肉障害（コルク状、水浸状）の発生が平年に比べ多かった。
- 「新高」で裂果が平年に比べ多かった。

2. 病害虫防除

<発生状況>

- 黒星病：発生は平年並みだが、一部園地で多発生。
- 輪紋病：「新星」で平年に比べ多く中発生。
- ハダニ類：8月中下旬の高温乾燥で急増し、多発生。
- ナシヒメシンクイ：トラップへの第4～5世代の誘殺数は平年より少なかった。果実被害は、「幸水」で少発生。

<防除のポイント>

- （黒星病対策）秋型病斑葉や芽基部への感染は翌年の一次伝染源となるため、樹上に罹病葉が残っている間は、約2週間間隔でオキシラン水和剤（500倍、収穫3日前まで、9回以内）を散布し、越冬菌密度を減らす。多発園では、定期防除に加え、下記の特別散布を実施する。

<薬剤防除>

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率	10a当たり散布量	対象病害虫	実施日 (自己記入)	
15	10月9～11日頃	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノー	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
16	10月23～25日頃 (前回散布の14日後頃)	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノー	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
特 散	11月6～8日頃 (前回散布の14日後頃) ※黒星病の発生が多い場合	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノー	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	

3. 今後の管理

(1) 肥培管理

【礼肥】

- ・翌年の花芽の充実と貯蔵養分の蓄積を促進するため、礼肥として、収穫終期に硫酸で10～20kg/10a、収穫終了直後に1回当たり硫酸で10kg/10aを施用する。

【基肥】

- ・有機質肥料（ミドリトップ等）を10～12月上旬に、窒素成分で12kg/10a程度施用する。

【土壌改良】

- ・pH5.5～6.5を目標に、石灰質肥料（苦土石灰、マグフミン等）で調整する。石灰質肥料は、基肥の効果が低下しないよう基肥の14日以上前に施用する。
- ・土壌中の腐植含量を増やし、通気性、保水性の高い土壌に改良するため、ホールディガーを用い、有機物資材（堆肥等）を1～2t/10a施用する。
※各資材の施用量は、これまでの施用実績、樹勢に応じて加減してください。

(2) 落葉処理(黒星病対策)

- ・黒星病は、落葉上で越冬した胞子が春先に飛散することにより感染が拡大する。そのため黒星病の発生が多かった園では、翌年の感染源を減らすために落葉処理を実施する。
 - 実施時期：11月～翌年3月中旬まで（胞子が飛散する前までに実施）
 - 実施方法：ナシ黒星病の落葉処理マニュアル参照

・農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意してください。
・また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用してください。

<お知らせ>

- ・今年度の管理情報は、今号が最後です（号外を除く）。
- ・黒星病の全園地を対象とした秋型病斑調査を10月中旬に行う予定です。